



日中環境問題サロン2019年の紹介

櫻井次郎 神戸市外国語大学

日中環境問題サロンは、中国の環境NGOと日本のNGO、研究者、学生らが集い交流する場として2009年から毎年開かれ、今年で10年となります。この間、中国から来日した環境NGOは30を超えました。過去のサロンについては、あおぞら財団のウェブページをご覧ください。ここでは、2018年度の日中環境問題サロン(2019年1月25日)で活動報告をした4つの環境NGOについてご紹介したいと思います。

はじめに紹介するのは、江蘇省蘇州市の「緑色江南公衆環境関心センター」(通称「緑色江南」)です。「緑色江南」は、2014年1月の日中環境問題サロンで報告した方君さんが立ち上げた団体で、当時は既存の環境NGOと協力して公害発生源を告発する活動が注目され、日本でもNHKBSで特集報道がなされました。今回のサロンで活動報告をされた巢博さんによれば、「緑色江南」はその後工場排水の測定、記録、撮影、

地方政府への告発を継続し、これらの情報はウェブ上で公開するようにしたそうです。また、特定テーマに焦点を当てた報告書や年次報告書も作成され、ウェブ上で公開されています。

また、公害発生源のモニタリングのみならず、地元政府や当事者などとの円卓会議の実施、交流サロンの開催、金融機関への働きかけ、環境公益訴訟の提起など、活動は多様化しています。なお、今回報告された巢博さんは、2012年6月に江蘇師範大学の都市環境学院環境化学学科を卒業し、大学在籍時には環境サークルの主任を務めていたそうです。

次に報告されたのは、遼寧省の大遼河流域で活動する「瀋陽緑色希望」で、柳軼さんが報告してくれました。遼河は中国七水系の一つで、渾河および太子河と合流して大遼河となり、營口市から遼東湾に注ぎます。渾河は撫順や瀋陽を通過して、太子河は本溪、遼陽を通過してそれぞれ遼河と合流します。これらの都市を含む遼寧省は鉄鉱石の採掘量が全国一で、その他にも豊富な鉱山資源を有していますが、重化学工業の設備は旧式のものも多く、遼河の水質汚濁の原因となっています。柳氏はこの地域で公害発生源の調査を始めたNGOのメンバーです。

いくつかの事例を紹介してくれました。一つ目は渾河の支流のひとつ拉古河(李石河)の水質汚濁問題です。拉古河流域には鉱山、冶金工場、採石場などがあり、その上流には撫順市の経済開発区や工業団地群があります。2018年6月に柳さんが政府に問題の告発をした後、特別調査隊が組織されましたが調査結果は公開されていません。また、鞍山市海城県における水田汚染事件では、ボランティアらによる調査と地元住民らの告発により被害者へ補償金が支払われることになったものの、汚染事件の原因は明らかにされていないそうです。

このほか、撫順市の満州族自治州における渾河水質汚濁事件(汚水処理場の未処理排水)、観音市閻水ダム湖周辺の鉱山採掘等による太子河水質悪化への影響についても報告がなされました。

天津で活動する「ゼロエミッション連盟」の田祖寧氏 (2019年1月25日撮影)



遼寧省の大遼河流域で活動する「瀋陽緑色希望」柳軼氏 (2019年1月25日撮影)



三番目に報告されたのは「広州市海珠区青城環境文化発展センター」(通称「青城環境」)を設立した陳志強さんです。青城環境は、水源地域における植樹、林業トレーニング、自然保護区(貴州省)における環境教育、大学キャンパスの低炭素化活動、流域共同管理をテーマとするサロンの運営などを行っています。その中で最も活動歴が長いのは珠江支流の東江上流における植樹活動です。東江は香港や深圳などの都市に生活用水を供給しており、特に香港住民が関心を寄せています。また、流域共同管理への理解を促すためにロールプレイング・ゲームの開発も行っています。陳さんは自らNGOを立ち上げる前に「香港・地球の友」や「IUCN China」で働いており、このときに水源地保護プロジェクトを担当し、東江上流の江西省尋烏県葛蒲郷に泊まり込んで植樹活動を成功させました。その後、香港から広州市に戻り自らNGOを立ち上げてからは、かつての経験や人脈を活かして活動を続けています。環境NGOが少ない広州市において活動を続ける貴重な存在と言えます。

最後に報告されたのは、天津で活動する「ゼロエミッション連盟」の田祖寧さんです。ゼロエミッション連盟は、ごみの排出抑制に対する市民の意識を高めてゼロエミッションを実現することを目標に設立されたNGOです。中国では近年、家庭ごみの分類回収が始まっていますが、その過程ではさまざまな問題が発生しています。ゼロエミッション連盟は、行政や専門家らと協力して団地におけるごみ分類を促すイベントを開催したり、成功例を収集してSNSで発信したり、各地のボランティアをネットワークで繋げる活動をしています。その中でも特に注目を集めたのが、「ゼロエミッションデー」のイベントです。このイベントでは、著名なタレントがごみ分類活動に参加する様子や、協賛企業がボランティアを表彰する様子などがSNSを通じて公開され、注目を集める工夫がなされています。また、最近ではプラスチックごみ削減のための調査活動も実施され、報告書も作成されています。



第5回日中環境問題サロンの様子 (2019年1月25日撮影)

学生感想

中国環境NGOとの交流

森川麗華（神戸市外国語大学
中国学科3年）

中国の環境NGOとの交流は昨年に引き続き二回目でした。昨年とは異なり、今回の交流では自分と年齢の近い人が第一線で活躍しているのを知り、とても刺激になりました。また、今回はあおぞら財団さんで行われた会議で通訳を担当させていただき、学校の講演会で聞いた話以外により詳しく彼らの活動と成果を聞くことができました。

お話を聞く中で興味深かったのは、人々の意識についてです。例えば、私たち日本に住んでいる人々はペットボトル専用のごみ箱に燃えるゴミを入れようとはしません。入れてしまった場合、多くの人は罪悪感を覚えます。中国の環境NGOの人の話によると、中国ではリサイクルという考え方はあるものの、罪悪感を抱くまでの域には達していないようで、日本の様に人々の意識を変えていくことが今の中国の目標であるそうです。

また、驚いたのは大きな工場からとても少量の眼ではとても見にくい汚染された排水を見つけて出し、それを政府に報告しわずか数か月でその工場の汚染物質管理を改善させたという話を聞いたことです。加えて、その活動を第一線で行っていたのが大学を卒業したばかりの若い女性だったことも、来年度大学三年になる私にとってとても刺激を受けた点でした。自分の信念をもって多くの人の利益のために動くことはとても簡単なことではありません。このお話を聞いたとき、普段の地道な努力と声を上げる行動力にとっても驚かされました。

今回の交流の中で、中国の環境NGOがまだまだ多くいること、そして若い世代もしっかりと上の世代から知識などを学び、環境を守るという精神を受け継いでいることを知ることができました。また、私自身環境の勉強を専門的に行っているわけではありませんが、自分と同世代の若者が頑張っている姿をみて自分も自分の勉強を頑張っていこうと決意できました。

活動を紹介する陳志强氏
(2019年1月25日撮影)



陳志强氏の活動を紹介した資料



広州市の青城環境のロールプレイングゲームについて

伊賀比呂乃（神戸市外国語大学
中国学科3年）

今回の交流会を通して、中国のNGOの方々がどんな活動を行っているのか知れて良かったです。NGOの方々には政府と上手く連携して環境問題解決に向けて様々な活動を行っていました。特に関心を持ったのは青城環境のロールプレイングゲームです。実際にカードを使って一般市民や社長、会社員、医者、市長などの様々な職種にわかれて意見を出し、その意見についてみんなで話し合い、それが良いものであれば実行に移すというゲーム内容です。例えば、ある企業の社長が工場を建設するという案を出したら、その案が良いものか検討し、投票で案が通れば工場が建設されます。しかし、工場建設により工場排煙が大気汚染に影響を及ぼしたり水質汚染につながったりするので、環境問題を考慮していないという点で減点があるそうです。私はこの減点方式はとても興味深いと思いました。減点方式があるため、実際の状況を考慮したゲームで、多くの人が参加することでより現実に近づく良いゲームだと感じました。

中国環境NGOとの交流会に参加して

大野瑠莉（神戸市外国語大学
中国学科3年）

私は今回の交流会のようなものに参加するのは初めてでしたが、現在中国で実際に活発に活動しているの方々のプレゼンを聞き、自分の知らない環境活動について多く知識を身に付け、刺激を受けることができました。

プレゼン後の交流会では、ひとりひとりとお話することができ大変貴重な時間でした。始めの「中国語勉強しているんだ!」といった軽い話から、日本ではどのように環境に対する意識を身につけていくかなど、こちらから話す前にとっても積極的に質問をいただき、彼らの意識の高さを実感しました。日本の学生は、それほど環境意識の高い人はいないので、これほど真剣に環境を考える人がいるということに大変刺激を受けました。わたし自身そこまで気にしたことが無かったので言われて初めて気づいたことも多くあり、今後はもっと自国の環境・水質汚染問題等にも目を向けつつ、今回お話を聞いた中国の水質汚染・土壌汚染・ゴミ分別なども、留学先で実際に肌で感じながら向き合ってみたいと思いました。

「綠色江南」の巢博氏
(2019年1月25日撮影)



感想を話す李力氏
(2019年1月25日撮影)



発行元

公益財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団）
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1丁目1番1号あおぞらビル4階
(Tel) 06-6475-8885 (Fax) 06-6478-5885
(HP) <http://aozora.or.jp/> (E-mail) webmaster@aozora.or.jp